

募集とお願い

★次号の「表紙イラスト」ボランティアさん募集中！イラスト描きが得意な30歳未満のアマチュアのかた。YA小説の表紙っぽい絵や、中高生や若い人が好むタッチの絵柄で、オリジナルのモノクロのイラスト。絵のサイズはB6サイズぐらいで四方が直線のもの。紙に手描き・デジタルどちらでも可。掲載の場合、薄謝として1000円分の図書カードを差し上げます。まずはご連絡ください。第3号の表紙イラストは麻兔さんと峰亀さん姉妹にご協力いただきました。

★「YA読書応援団！」情報募集中！YA(人・本)やYAの読書活動を応援しているグループ・団体を当会員が取材して、ニュースレターで紹介していきます。YA読書応援団と呼べる活動をされているかたについてぜひ情報をお寄せください。

★ニュースレター個人購読登録(送料+カンパ)とご寄付のお願い 直接受け取りを希望されるかたは、購読登録にご協力ください。カンパ含めて「4号」と「5号」分の送料として下記の口座に1000円ご入金の上、送付先の住所とお名前をお知らせください。1部ずつ郵送いたします。第4号は2020年7月ごろ発送予定です。2部以上ご希望のかたはご相談ください。ニュースレターはみなさまからの寄付で作成、配布しています。印刷費用以上に送料や雑費などの経費がかかります。日本YA作家クラブの活動にご賛同いただける会員、非会員のみなさまに、ご協力をお願いします。お振り込み手続き完了後に必ずメールでご連絡ください。

銀行振り込みの場合
ゆうちょ銀行 ○二八店(ゼロニハチ店)
普通0406075 名義YARC
郵便局からご送金の場合
番号10250-4060751 名義YARC



「日本YA作家クラブ」会員のインタビュー、Webで公開中 <http://jya.iinaa.net>
インタビューは「日本YA作家クラブ」サイトよりと明記があれば図書便りなどに転載OK

2019年11月末までの会員(50音順敬称略)
石川宏千花、石飛千尋、大島恵真、香谷美季(篠原美季)、片川優子、風野潮、金原瑞人、河合二湖、如月かずさ、木村航、朽木祥、栗沢まり、黒川裕子、香坂直、神戸遥真、越水利江子、後藤みわこ、こまつあやこ、三辺律子、鹿田昌美、篠原まり、新城カズマ、しんやひろゆき、代田亜香子、たからしげる、立原透耶、中村浩美、梨屋アリエ、那須田淳、西田登、野沢佳織、花形みつる、原田勝、藤野恵美、菅田哲也、松山美保、宮下恵菜、森川成美、横山充男、寮美千子、令丈ヒロ子

このニュースレターは、任意団体である日本YA作家クラブが、みなさまからの寄付で作成し、無料配布しています。

目的は、(a) YAをPRする作家と翻訳家の会「日本YA作家クラブ」と、YA(ヤングアダルト)という言葉、概念を知っていただき、(b) 会員インタビューなどを掲載したウェブサイト <http://jya.iinaa.net> を案内すること。

対象は、(1) 子どもや若い人たちがYA書籍にふれる環境を整備できる立場にいる人——具体的には、公共図書館や学校図書館のスタッフ、教育・福祉関係者、書店員や本に関わりのある人、(2) その他、購読を希望する機関と個人です。

A3版両面刷りの「紙」版の他に、PDFファイル版があります。掲示用の印刷・複製可です。PDFファイル版は読書活動に関する代表のかたにメールで配布しています。どうぞご利用ください。バックナンバーは閲覧用にWebで公開中です。

この紙面や当会のサイトが、YA読書に関わるみなさまのお役に立てればと思います。図書館や学校などでの紙面の展示や閲覧、配布も大歓迎です。

ご協力ありがとうございました。

協力・加藤寛子、黒川裕子、こまつあやこ、三辺律子、須賀千絵、ひこ・田中、野沢佳織、山口鈴江、令丈ヒロ子
(50音順敬称略2019年5月~11月末)
編集アドバイザー・門田奈穂子(YARC)
校閲・神戸遥真 (敬称略)
編集・デザイン 梨屋アリエ

編集後記

梨屋が世話人をしている読書会YA*cafeに、ある参加者さんが「こんなニュースレターを図書館のYAコーナーで配っていましたよ」とミニサイズにコピーされたものを持ってきてくださいました。それ作ったのわたしです！(笑)
いろいろな場面で活用していただき、大変嬉しいです。紙面のご感想、ご要望、活用例など、メールやSNSでぜひお聞かせください。

イラスト
麻兔さん 4点
点線囲みの2点が
峰亀さん

に ほ ん わ い え - さ っ か く ら ぶ

日本YA作家クラブ

Newsletter

Vol. 3

YAでつながろう！



CONTENTS

- ◆ 作家・翻訳家のお気に入り調査隊
藤野恵美さん・代田亜香子さん
- ◆ YA読書応援団！
カリヨン文庫さん
- ◆ 募集とお願い

YAとは、若い大人を表すヤングアダルト Young Adultの略称で、ワイエーと読みます。「子ども」や「学年」の枠にとらわれない若い人向けの本をYAと呼んでいます。

「日本YA作家クラブ」は、YA(ヤングアダルト)作品の作家と翻訳家の有志により2009年に発足しました。YA作品やYA関連の情報を、書店さんや司書さんや先生や読者の皆さんに広く提供することを目的とした、インターネット上でPR活動をする会です。

に ほ ん わ い え - さ っ か く ら ぶ

日本YA作家クラブ

Newsletter

第3号 2020年1月発行
代表世話人 金原瑞人 梨屋アリエ



ニュースレターの
バックナンバーも
日本YA作家クラブ
のWebサイトで！

お問い合わせはメールでお願いします。
jya.sakka@gmail.com

<http://jya.iinaa.net>

作家・翻訳家の お気に入り 調査隊

その1 作家の
藤野恵美さんの
お気に入り、おしえてください!!

わたしのお気に入りは、母校である大阪芸術大学のオリジナルトートバッグです。

何年か前に、大学で講演会を行ったときにいただいたのですが、丈夫で使い勝手がいいので、愛用しています。



しっかりとしたコットン素材で、形や大きさがゲラ(校正のために原稿を本とおなじレイアウトで印刷したもの)を入れるのにちょうどよく、カフェで仕事をしたいときには、このバッグにゲラを入れて、出かけます。

それから、サイン会や書店まわりのときも、バッグのロゴを見て、あ、芸大だ……と気づいてくれる方もいたりして、話題のきっかけになるのです。

あるときは、息子の学校行事にこのバッグで行ったところ、ほかの保護者さんに声をかけられ、実はおなじ大学の卒業生だった……ということがわかって、一気に親近感が湧いたのでした。

わたしは高校時代、いわゆる進学校と呼ばれるところにおり、まわりには偏差値至上主義みたいものがあつたのですね。

そんな中で、ひとり、ノートにせっせと小説を書いていて、創作について専門的に学びたいと思って、芸大に進むことを決めたので、多数派から「変わり者」扱いをされていたのでした。

しかし、あのとき、まわりに流されず、自分のやりたい道を選んでよかったなあ……ということをおこのバッグを手にするたび、思うのです。

藤野恵美さんの
最近のYA作品のことも
おしえてください!!



『ふたりの文化祭』(角川文庫)が最新のYA向け作品です。

『わたしの恋人』『ぼくの嘘』に続く、おなじ高校を舞台としたシリーズの3作目です。

今回の主人公のひとは、友達の少ない文学少女で、自分の高校時代がかなり反映されています。

男女の爽やかな友情をテーマとした青春小説です。

「お気に入り調査隊」は、二年以内にYAの新刊のある会員が「お気に入り」を紹介しています。

お気に入り 調査隊

その2 翻訳家の
代田亜香子さんの
お気に入り、おしえてください!!

わたしがハマっているのは、「朝活」です。いえ、実は、いつか試みたかっただけで、ただの願望なのですが。

早起きが苦手なくせに、朝が大好きです。朝早くから活動するために、高校生のころは友だちと教会で待ち合わせ(キリスト教系で教会に行くのがいちおう校則)、大学のころは早朝英会話のクラス、会社勤め時代は早朝ヨガを受講していました。



自然に早起きできるようになりたいと、あらゆるお楽しみを計画します。モーニング食べながら原稿を読もうとオシャレなカフェをチェックしたり(挫折しないために打ち合わせを早朝にしてみたり)、スムージー用の高級ジューサーを買ったり、朝アイスをストックしたり。

気づいたら食べものばかりですが、かなり有効なのは、好きなパンを買っておくことです。おいしいパン屋さんをさがす執念がきたら、これを仕事に生かしたらといつも思っています。この前、北海道から買ってきてもらった限定パンが、大ヒットでした。千歳空港にあるロイズチョコレートワールドでしか売っていない、板チョコをはさんだパンと、生チョコクロワッサンです。見た目は斬新ですが、正統派のおいしさでした。こういうパンがあると、楽しみで早起きできます。あ、ということで、願望ではなくいえるお気に入りは、「パン」ってことになりますね。



代田亜香子さんの
最近のYA作品のことも
おしえてください!!



11月に『アナと雪の女王～同時収録短編 エルサのサプライズ』(小学館)、12月には『アナと雪の女王2』が出ます。もともと大好きだったアナ雪ワールドに染まりきった秋冬を過ごしました。パート2、ものすごくおもしろいです。いまは頭のなかで、「イントゥ・ジ・アン・ウン」がエンドレスリピートしています。

カリヨン文庫 毎週木曜日活動



病室で読み聞かせするボランティア



倉庫で眠る児童書とブックワゴン

病室や怪我で入院したことはありませんか? 経験者なら、退屈で寂しいのっぺりした時間を思い出せるでしょう。子ども時代の病室での唯一の楽しみが、本やマンガを読むことだったという大人のかたもいらっしゃるかもしれません。

いま、病院の子どもたちは本にであっているのでしょうか。調べてみると、様々な病院に院内図書館が設置されていることがわかりました。基本は医学・医療情報で規模は様々ですが、医療従事者の研究のほか、患者とその家族が病状を理解し、適切な治療を受けるための正しい知識にアクセスできる専門図書館として、専任の司書を配置している病院もあります。そのほかに、娯楽の本や子ども本を揃えた図書コーナーを設置している病院もあります。さらに、地域のボランティアを受け入れて、患者向けに絵本の読み聞かせをしたり、病室を回って本の貸し出しをしたりする活動もあると知りました。小さい子だけでなく、小学高学年や中学生にも本を手渡そうと活動しているボランティアさんがあるのなら、その活動を見てみたい! というところで、調査中に資料で見たカリヨン文庫さんにご連絡。

カリヨン文庫さんは埼玉県立小児医療センターで一九八〇年代から長くボランティア活動をされています。取材の申し込みをされると、小児医療センターが二〇一六年末に現在のさいたま新都心に移転してから、小さい子への読み聞かせの活動のみということでした。病院の方針で現在は本の貸し出しは行っていないそう。えっ、どうしよう、YA読書応援団のコーナーがない。YAがない……。迷いましたが、病院の許可を得て二〇一九年二月にカリヨン文庫さんの活動を取材させていただきました。

読み聞かせの希望をとってくださいます。ボランティアは看護師の指示を受けてフロアのユニットごとに病室を巡っていき、集団でなく個別に対応します。ベッドで聞く子もいれば、椅子に座って聞く子もいます。希望していたのに容態が急変してキヤンセルになった子もいました。ほとんどが学齢期前の子どもたちでしたので、絵本のほかに手遊びや指人形などもされていました。付き添いの保護者もそばで一緒に聞いています。読本や人形はボランティアさんが準備して持ち込んだもの。次はなにが出るの? まるで魔法のカバンのような感じです。読み聞かせ終了後、どの本を読んでどうだったかの記録を活動ノートにつけていきます。ボランティアのメンバーはローテーションで訪れるため、このノートが役に立ちます。

カリヨン文庫さんは、「外からの空気」を付き添いの保護者に感じてもらうことも大切にしています。病室では病児と一対一の状態が続く、付き添いのかたの疲労も孤立感もたまりやすくなります。そのときに吹き込む一瞬の風。読み聞かせは、生身の人と人が物語を介して新たな向き合える時間です。

取材中、あるお母さんが廊下の休憩スペースでコンビのおにぎりをわしわしと口に押し込んで、また慌ただしく病室にもどる姿を見かけました。患者の子には病院の食事がありますが付き添いにはありません。何日もの入院となれば本当に大変です。書店巡りや公共図書館に子ども本の本を借りに行くほどの余裕はとて持てないでしょう。

病院の方針で本の貸し出しをやめたのは、衛生面を考慮してのことでしょう。院内の、清掃用カートと同じ部屋に置かれたカリヨン文庫の本棚には、貸し出しできなくなったたくさんのお子書が、ブックワゴンとともに眠っていました。状態の良い本なので、何らかの形で活用していただきたいと思っています。

病室は個室でテレビがあり、携帯ゲーム機やタブレット端末も普及して、病児の過ごし方は昔とずいぶん変わっています。衛生面で特別な配慮が必要な子には電子書籍で児童図書を貸し出すなど、あらゆる子どもが読書を体験できるような環境の整備を大人たちにすすめてほしいと思います。読み聞かせを卒業した子どもたちこそ、次の本にであえる環境が必要です。

YA読書応援団!

第3回 取材レポート 梨屋アリエ